



西条市立西条図書館ヤングアダルトコーナーフェア案内

YAおすすめ本 2021年11月

フェアテーマ

『海外文学』



秋は読書の秋、図書館としてはどんどん借りて読んで欲しい！と願ってやみません。さて、ヤングアダルトコーナーの中でも、何故か動きが少ないのが海外文学です。実は海外で高い評価を受け、有名な賞を受賞した本が主に翻訳されて入っているため、海外文学はどれを手にとってもはずれがないんです。本当に面白いんです。是非是非、読書の秋、いつも手に取る啓発本やエッセイや、小説の他にも、海外文学を手にとってみてください。好きになると思いますよ。



西条市立西条図書館

住所：西条市大町1590

TEL0897-56-2668

開館時間9：30a.m.~20：30p.m.

11月フェア『海外文学』おススメ本をご紹介

エドガー賞

1945年創設。アメリカ探偵作家協会主催。前年にアメリカで発表されたミステリー作品を対象に、5月ごろ選ばれます。最も優れたミステリー作品に贈られ、13の部門のうち、児童・ティーンズを対象にするものとして児童図書部門およびヤングアダルト小説部門があります。



『きみのいた森で』（2019エドガー賞受賞作）

ピート・ハウトマン 評論社 2021. 1 933/ハ

大好きなおじいちゃんを亡くしたスチューイ。エリー・ローズという親友ができて、やっと元気を取りもどした。毎日のように森で遊んでいたが、ある日、エリー・ローズの姿がぼやけて、そのまま消えてしまい…。

カーネギー賞

カーネギー賞は、フィクション・ノンフィクションを問わず、イギリスで出版された児童書の中で、もっともすぐれたものに対し年に一度贈られる、権威ある児童文学賞です。アンドリュー・カーネギーの図書館界における業績をたたえ、1937年に創設されました。

全米図書賞

全米図書賞は、1950年に全米出版者協議会やアメリカ小売り書店協会などにより創設されました。現在は、全米図書財団に運営が移り、児童文学部門は、アメリカ人によって書かれた子どもやティーンズ向けの作品の中から、主に文学としての完成度という観点から5人の選考委員によって選ばれます。

『詩人になりたいわたしX』（2019年カーネギー賞受賞作）

（2018年全米図書賞受賞作）

エリザベス・アセヴェド 小学館 2021. 1 933/ア



ハーレムで暮らす15歳の少女・シオマラは、厳しい母親に猛反発していたが、高校のポエトリー・スラム部で詩のパフォーマンスを知り、自己表現の世界にのめり込んでいく。全編を詩で描く、家族と恋と友情の物語。

11月フェア『海外文学』おススメ本をご紹介

『世界のはての少年』（2018年カーネギー賞受賞作）



ジェラルディン・マコックラン 東京創元社 2019. 3

933. 7/マ

スコットランドのヒルタ島から、海鳥を獲りに無人島に渡った12人。だが約束の日が過ぎても迎えの船は来ない。厳しい自然の中、少年は仲間とともに生きのびるために闘う…。実際の事件をもとに描いた、勇気と成長の物語。

スコット・オデル賞

1982年、スコット・オデルによって設立された歴史小説を対象にした賞。前年、アメリカの出版社から出版された、アメリカ人による作品で、新世界を舞台にした子ども向け、ティーンズ向けの歴史小説が対象となります。

『希望の図書館』（2019年スコット・オデル賞受賞作）



リサ・クライン・ランサム ポプラ社

2019. 11 933/ク

1946年、アメリカ。ラングストンの母さんは「黒人は、図書館に入れてもらえない」と言っていた。しかし、ラングストンは新しく引っ越してきたシカゴの町で、偶然大きな図書館を見つける。そこは、すべての人が自由に入れる図書館だった…。



11月フェア『海外文学』おススメ本をご紹介

ニューベリー賞

1922年以來毎年アメリカ児童文学にもっとも貢献した優秀作品に贈られている賞。アメリカ図書館協会の児童部会が運営しており、英語圏の児童文学賞としては、イギリスのカーネギー賞と並んで権威があります。対象は、アメリカの国民または在住者によって前年にアメリカ国内で初めて出版された英語の作品。次点作は、「オナーブック」と呼ばれます。

『スアレス一家は、今日もにぎやか』

(2019年ニューベリー賞受賞作)

メグ・メディナ あすなろ書房 2019.12 933/メ

名門私立校に編入したメルシ。クラスメイトはリッチな子ばかりで、うまくやっただけでも大変なのに、おじいちゃんがアルツハイマー病になってしまい…。フロリダ発、あったかいけどちょっとビターな家族の物語。



『ハロー、ここにいるよ』 (2018年ニューベリー賞受賞作)

エリン・エントラダ・ケリー 評論社 2020.1 933/ケ

ヴァージルはおとなしい男の子。女の子を好きになっても「ハロー」と声をかけることさえできない。なやみがあるときは、自称“霊能者”のカオリに相談に行く。ある日、ヴァージルは、いじめっ子に古井戸に閉じこめられてしまい…。4人の少年少女のある1日のできごとを描いた友情物語。



コスタ賞

イギリスまたはアイルランド在住の作家に与えられる英語文学賞。1971年から2005年まではウィットブレッド賞と称していたが、スポンサーが子会社のコスタ・コーヒーに代わったことに伴い2006年から現在の名称になった。

(2018年コスタ賞受賞作)

『ルーパートのいた夏』

ヒラリー・マックイ 徳間書店 2020.12 933/マ

20世紀はじめの英国。父、兄とともに暮らす女の子クラリーは、笑顔のすてきないとこのルーパートに淡い思いを抱いていた。しかし第一次世界大戦がはじまり、ルーパートは入隊、平和な日常は終わりをむかえ…。

